

事業活用団体事業実施後アンケート

【様式】健康づくりボランティア養成・活動支援事業 実施後アンケート

(H31年度実績報告時に各団体から提出)

※質問3および質問5～質問11はドロップダウンリストから回答

※質問7～11については、事業活用期間中、いずれかの年で実施があれば「あり」

	質問	回答	ドロップダウンリストの内容
1	事業活用年度		
2	事業開始当初（事業を活用した初年度）の目標		
3	当初目標の達成状況 （令和2年3月時点）		1.目標を上回る成果があった 2.ほぼ目標どおり 3.あまり達成できなかった 4.全く達成できなかった
4	上記3の要因		
5	事業開始当初（事業を活用した初年度）の団体の状態 ※別添資料「地域の健康づくり実践マニュアル（抜粋）」参照		1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
6	事業終了後の団体の状態 ※別添資料「地域の健康づくり実践マニュアル（抜粋）」参照		1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
7	年間学習計画の有無		1.年間計画あり 2.年間計画なし・学習会実施あり 3.年間計画なし・学習会実施なし
8	推進員が活動を評価される機会		1.地域から評価される機会があった 2.地域からの評価はなかったが、推進員同士ねざらいあう機会があった 3.機会がなかった
9	（市町村内外問わず） 他団体との交流		1.実施あり 2.実施なし
10	推進員主体の企画・運営		1.実施あり 2.実施なし
11	成果物（年間活動報告書等）の有無		1.有 2.無
12	養成・活動支援にあたり工夫したこと		
13	今後活動を充実するにあたり、外部から支援が必要なこと		

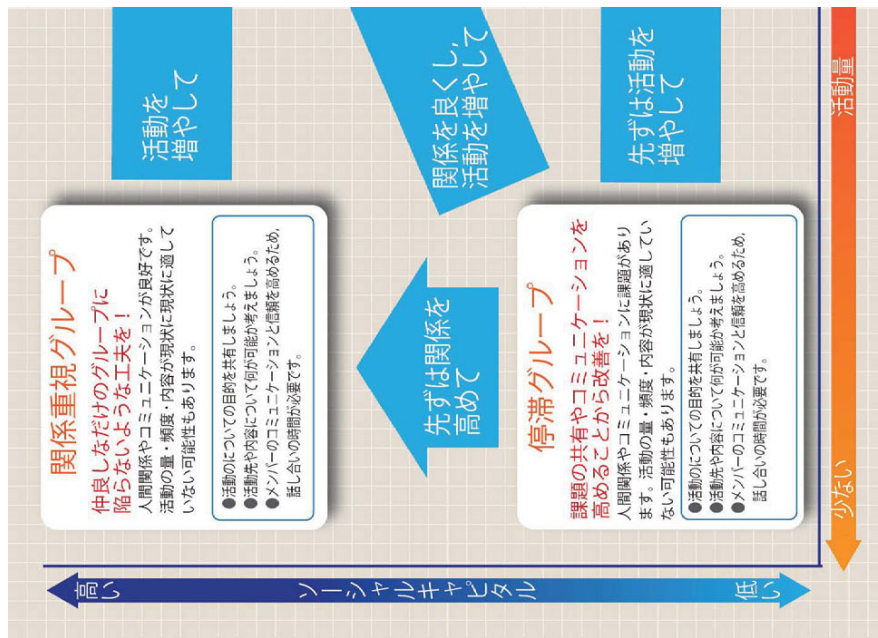
5-2-1 活動内容とグループの状態を振り返る

1. 今のグループの状態をチェックする

Practice

図1²⁾は、縦軸をグループ内のSC、横軸を活動状況（活動頻度、内容、質）として分類したものです。この図を基にまずはグループの状態をチェックしてみましょう。

「関係重視グループ」とは、いわゆる仲良しグループの状態に陥っています。グループ内の相互支援などグループ内SCは高い一方で、閉鎖的になっている可能性もあります。結果として、社会環境の変化を見落すと、新しい知識や情報を得られなといったことから、対象や地域のニーズに即した活動ができない、活動がマンネリ化する可能性もあります。



2. めざすべきグループの状態とは

図1 SCと活動状況で見るグループの状態

SCの高いグループ

- メンバー間のコミュニケーションが活発である。
- メンバー間の信頼関係が高く、「お互い様」の気持ちに基づき相互支援も活発である。
- 各メンバーが自分の意見やアイデアを言いやすい雰囲気である。
- メンバー間の活発な議論に基づいて、グループ運営に関する決め事など、意思決定ができる

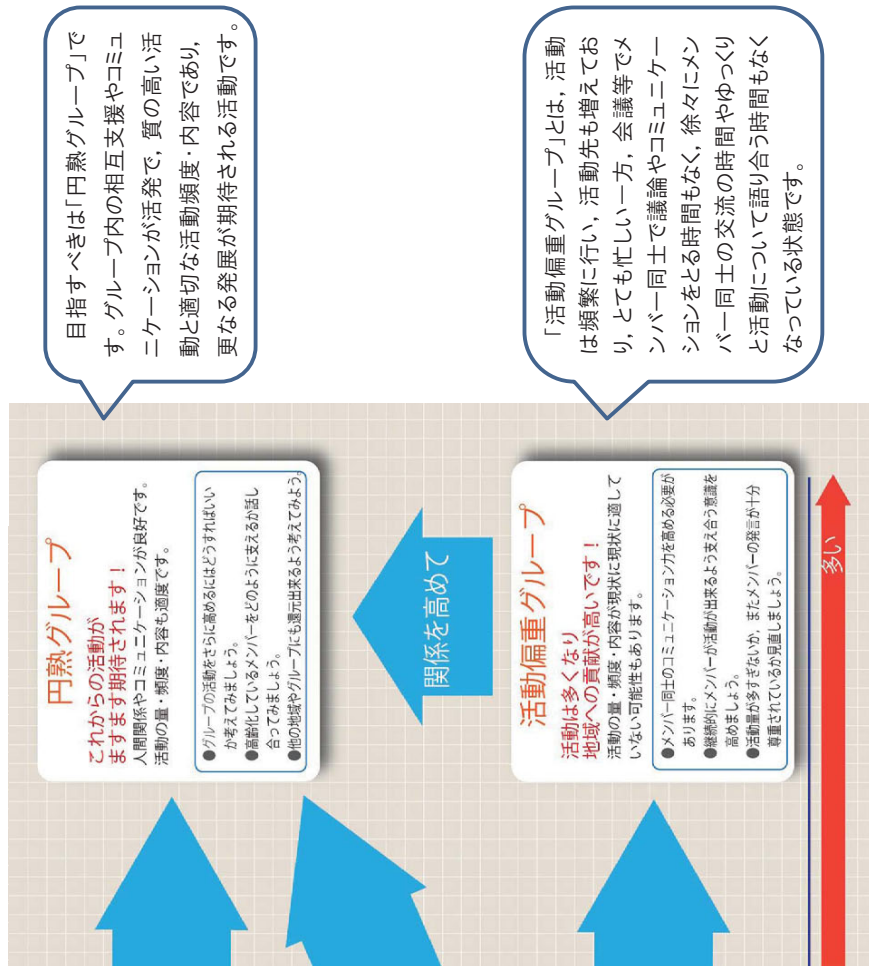
※平成26年度厚生労働省科学研究費補助金
ソーシャルキャピタルを育てる！活かす！

課題
今関わっている事業・活動が停滞しているように感じているのですが、どうすればいい？

2. めざすべき活動とは

地域のSC向上に有効な活動

- 活動内容が地域や活動対象の集団のニーズに即している。
- グループが掲げるミッション・目的も地域SCの向上を目指している。
- 活動量・頻度・内容がグループメンバーの現状に即した無理のない形態である。



SCの視点

- グループ内のSCを高めるために、自由かつ活発なコミュニケーションの場を設けることが有効でしょう。
- コミュニケーションの機会は一定の頻度で定期的に開催することが望ましいでしょう。

「地域の健康づくり実践マニュアル」から抜粋

【食生活改善推進員】事業実施後アンケート問1～問6

市町村名	問1			問2	問3	問4	問5	問6
	事業活用年度							
	H29	H30	H31					
				事業活用初年度の目標	初年度目標の達成状況 (令和2年3月時点) 1.目標を上回る成果があった 2.ほぼ目標どおり 3.あまり達成できなかった 4.全く達成できなかった	左記の要因	事業開始当初の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ	事業終了後の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
那覇市	○	○	○	・那覇市の健康課題に沿った活動(食事面の健康づくりを普及させる人)を担う人材を確保する。 ・人材を育成し、市民へバランスの良い食生活を普及させる。	3	H29年度に養成講座を実施したが、その後現在まで活動が続けている方が少ないこと。	2	4
宜野湾市		○	○	直近で食生活改善推進員養成講座を開催したのは平成26年度で、新規に18人が加わり、食改は当時61人、健康づくり推進員は18人であった。平成29年度以降もより多くの食改と健康づくり推進員を養成し健康づくり活動を充実させるために本事業を活用したい。平成29年度以降もより多くの食改と健康づくり推進員を養成し健康づくり活動を充実させるために本事業を活用したい。	2		3	1
浦添市	○	○	○	食改が食育推進リーダーとして地域で健康づくりの普及啓発、地産地消や食文化の継承のための活動を実践し、広げるために、調理実習や講習会を通して食や健康に関する知識を深めることを目的に浦添市食生活改善推進員育成事業を実施する。	2	・調理実習や講習会を計画通り実施することができた。 ・食改養成講座を開催し、15名を養成。うち10名が新規会員として協議会入会へつなげることができた。	1	1
糸満市	○	○	○	H29年度 養成事業 H30年度 育成事業 目標:小中学校の朝食摂取率を100%目指す。	3	市内小中学校の保護者や生徒に対して事業を行うことが出来なかった。一部には実施したが、しかしあらゆる世代には島野菜料理を普及はできたかと思う。	4	3
沖縄市	○	○	○	食生活改善推進員数を増加させる。	3	平成29年度と令和元年度に養成講座を開催したことで、新規会員が17名増えたものの、継続会員の高齢化を理由とした退会または死去等により、会員数は減少に転じている。	3	3
豊見城市		○	○	養成講座の継続と活動支援により協議会活性化を図り、会員数の増加につなげる (平成30年度から補助事業を活用)	2	補助の活用で養成講座を委託化でき、人手軽減ができたことで毎年の養成が継続できた。また、人手を活動支援に費やすことができた。	3	3

【食生活改善推進員】事業実施後アンケート問1～問6

市町村名	問1			事業活用初年度の目標	問2	問3	問4	問5	問6
	事業活用年度								
	H29	H30	H31						
					初年度目標の達成状況 (令和2年3月時点)		左記の要因	事業開始当初の団体の状態	事業終了後の団体の状態
					1.目標を上回る成果があった 2.ほぼ目標どおり 3.あまり達成できなかった 4.全く達成できなかった			1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ	1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
うるま市			○	滋賀県草津市における健康推進員の養成や活動の在り方や、推進員同士の関わり合い、行政の活動支援などについて視察し、年々推進員が減少傾向である本市の課題や課題解決策を見出す。	2		推進員が視察研修で学んだ事を、協議会活動へ活かし効果が得られるにはある程度の時間を要すると考える。	2	2
読谷村	○	○	○	主体的な活動を目指す	2			4	2
嘉手納町			○ ○	食を通じて町民へ郷土料理の調理実習を始め、望ましい食生活の啓蒙活動及び推進を行う。	1		1.沖縄県食生活改善推進員連絡協議会25周年記念表彰(団体・個人)、嘉手納町社会福祉協議会会長賞(団体)、沖縄県公衆衛生大会賞(個人)を受賞した。 2.各種事業の実施により望ましい食生活について啓蒙活動を行った。	2	1
西原町	○	○	○	新規加入者を増やし、メンバーが意欲的に活動に参加する。	3		養成講座受講人数が少なかった。活動の機会は多かったが、メンバーが希望する活動を取り入れることができなかった。	3	3
竹富町	○		○	県外視察(滋賀県草津保健所)管内3市町の食生活改善推進員で、推進員の活動支援が充実している滋賀県南部健康福祉事務所(草津保健所)を視察し、行政の活動支援のあり方、推進員自身の活動のあり方等、交流しながら習得、自身の地域での健康づくりに生かす。	2			4	3
与那国町	○		○	H29年度 宮古島の食生活改善推進員と交流し、活動への機運を高める。島の食材の活用の仕方を学ぶ。 H31年度 八重山3市町とともに滋賀県の健康推進員の活動について学ぶ。	2			3	3

【食生活改善推進員】 事業実施後アンケート問7～問12

	問7	問8	問9	問10	問11	問12
市町村名	年間学習計画・ 学習会の有無 1.年間計画あり 2.年間計画なし・学習会実施あり 3.年間計画なし・学習会実施なし	推進員が評価 される機会 1.地域から評価 される機会があ った 2.地域からの評 価はなかった が、推進員同士 ねざらいあう機 会があった 3.機会がなかつ た	他団体との 交流 1.実施あり 2.実施なし	推進員主 体の企画・ 運営 1.実施あり 2.実施なし	成果物 (活動 報告書 等) 1.有 2.無	支援にあたり工夫した点
那覇市	1	1	1	1	1	養成については、募集方法と開催方法を変更し実施した。平成29年度までは、養成講座が2年に1回の開催でしたが、令和元年度より随時募集とした。養成講座を6回/年開催していましたが、会員の定例会に養成講座内容を入れて開催した。
宜野湾市	1	1	1	1	1	食改は、自主的に活動できる円熟グループであるので、補助金を減額されなければ、子供から高齢者までの食育を展開できるが、健康づくり推進員は活動するメンバーが固定化された活動偏重グループであるので、定例会の講話で、健康づくり活動の展開方法と得られる効果、今後の方向性を示すようにした。その直後のグループワークでは、活発な多くの意見が出るようになった。
浦添市	1	1	1	1	1	・食改活動に生かすことができるよう、食改が学びたいこと、困っていることなどを聞き取り、事業内容に反映させた。 ・当事業の取組みや食改の活動の様子を市のホームページや広報、地域のイベント等の場で公表し、食育や食改活動について広く普及した。
糸満市	2	2	1	2	1 (20周年記念誌)	・推進員自ら企画運営が難しく行政への負担が大きい。 年齢の高齢化もあるが養成講座も毎年実施は不可能(栄養士の対応が難しい)推進員に負担のない業務については推進員に任せているが、ほとんどが行政主導。
沖縄市	1	1	1	1	1	1.健康や栄養等に関する情報を随時提供するとともに、市の実情に合わせた活動ができるよう、必要な支援(研修会等)を行った。 2.協議会の役割と行政の役割について相互理解を深め、自立した活動ができるよう促した。

【食生活改善推進員】 事業実施後アンケート問7～問12

	問7	問8	問9	問10	問11	問12
市町村名	年間学習計画・ 学習会の有無 1.年間計画あり 2.年間計画なし・学習会実施あり 3.年間計画なし・学習会実施なし	推進員が評価 される機会 1.地域から評価 される機会があ った 2.地域からの評 価はなかった が、推進員同士 ねざらいあう機 会があった 3.機会がなかつ た	他団体との 交流 1.実施あり 2.実施なし	推進員主 体の企画・ 運営 1.実施あり 2.実施なし	成果物 (活動 報告書 等) 1.有 2.無	支援にあたり工夫した点
豊見城市	1	1	1	1	1	養成講座の委託化。委託先が実施する養成講座から市町村協議会へ入会しやすいよう、カリキュラムの中でグループワークを多く取り入れてもらい仲を深めたり、協議会会員との交流を行うなど工夫した。また活動を継続しやすいよう研修内容を組んだ。
うるま市	1	1	1	1	1	視察研修の成果を上げるために、協議会の課題や研修の目的等の共有化を図った。 視察研修終了後、協議会で報告会を行った。
読谷村	1	2	1	1	1	スモールステップで、できそうなことを探す。定例会や自主活動を計画する際に、推進員の案や要望を聞き出す。
嘉手納町	1	1	1	1	1	活動内容や頻度を食改会員の無理の無いように工夫した。
西原町	1	1	1	1	1	活動についてイメージや情報共有ができ、誰でも負担なく活動ができるような内容を意識し、養成講座や定例会活動に取入れるようにした。
竹富町	2	2	1	1	1	できる限り会員が参加できるよう、また、意見が出しやすいようにした。
与那国町	3	1	1	1	2	他の地域の方たちの活動を見て刺激を受け、ヘルスメイト活動へのモチベーションを高められるようにした。 自分たちのところでできることは限られるが、無理のない範囲で楽しくできることを考える機会にできた。

【健康づくり推進員】 事業実施後アンケート問1～問6

市町村名	問1 事業活用年度			問2	問3	問4	問5	問6
	H29	H30	H31	事業活用初年度の目標	初年度目標の達成状況 (令和2年3月時点) 1.目標を上回る成果があった 2.ほぼ目標どおり 3.あまり達成できなかった 4.全く達成できなかった	左記の要因	事業開始当初の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ	事業終了後の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
那覇市	○	○	○	健康づくり推進員を育成するため、毎月の理事会・定例会への企画・調整・実施・報告等に関わることで、健康展等の健康づくり推進員による自主活動の支援を実施。	2		2	2
宜野湾市	○	○	○				3	3
伊江村			○	○伊江村健康づくり推進協議会 村民の保健向上について諸問題等を協議し、地域住民に密着した総合的な健康づくり対策を積極的に推進するとともに、村民の健康づくりに寄与することを目的とする組織 ○伊江村ヘルスレンジャー 伊江村に居住する方で構成されており、村民一人一人が村の「健康づくり事業」や「健康福祉まつり」に主体的に参加し、地域や職域・育成機関や行政と協働し村民の健康づくりを支援する体制を整えるための組織	2	平成30年度に伊江村の健康推進員を立ち上げ、令和元年度に当事業を実施いたしました。立ち上げたばかりであり行政が主体となっていて一緒に健康事業の内容や実施方法を立案していただき、健康事業に加わっていただいた。	2	3
読谷村	○	○	○	職員との信頼関係の構築、自主性の向上。	3	職員との信頼関係は深まったことがアンケート結果からも見えるが、自主性の向上についてはあまり変わっていない。	3	1
嘉手納町			○	集団健診補助の実施、特定健診戸別訪問受診勧奨の実施	2	集団健診補助については、各行政区の健診に出身区の会員が補助につくことができた。 特定健診戸別訪問受診勧奨については、天候に左右され予定回数を実施できなかった。各行政区の集団健診前に訪問を行っているが、訪問できる日数に限りがあることも影響している。	2	2

【健康づくり推進員】 事業実施後アンケート問1～問6

市町村名	問1 事業活用年度			問2	問3	問4	問5	問6
	H29	H30	H31	事業活用初年度の目標	初年度目標の達成状況 (令和2年3月時点) 1.目標を上回る成果があった 2.ほぼ目標どおり 3.あまり達成できなかった 4.全く達成できなかった	左記の要因	事業開始当初の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ	事業終了後の団体の状態 1.円熟グループ 2.関係重視グループ 3.活動偏重グループ 4.停滞グループ
北谷町		○	○	区民の健康づくりを意識させるような事業を始めたい	1	健康づくり活動について以前は停滞していたが、メンバーが一緒に考える定例会等が開催されることとなったため。	4	2
北中城村			○	健康推進員定例会にて、糖尿病予防とフレイル予防に視点を置き、バランスの取れた食事、たんぱく質の摂り方等を管理栄養士が講義し、またそれに準じた調理実習を実施。健康推進員が各家庭や地域に広め、地域での活動につなげていく。	2	1回目でフレイルやタンパク質等の講義を行い、2回目の調理実習で実践することで、目的を持ち取り組むことができた。	3	1
中城村	○	○	○	推進員活動の資質向上	3	通常の推進員活動以外にも、活動の場を拡充することはできたが、明確な成果は見られなかったため。	2	2
西原町	○	○	○	町民の健康づくりの推進を目的に、健康教育や研修を通じて「自らの健康は自ら守る」という意識を高め、健康づくりのキーパーソンとして行政と一緒に地域において健康づくりのリーダーの役割を担うことを目標とする。	2	訪問での健診の受診勧奨を実施してもらう中で、推進員自らの地域の健康課題と向き合うことができたため。	3	3

【健康づくり推進員】事業実施後アンケート問7～問12

	問7	問8	問9	問10	問11	問12
市町村名	年間学習計画・学習会の有無 1.年間計画あり 2.年間計画なし・学習会実施あり 3.年間計画なし・学習会実施なし	推進員が評価される機会 1.地域から評価される機会があった 2.地域からの評価はなかったが、推進員同士ねざらいあう機会があった 3.機会がなかった	他団体との交流 1.実施あり 2.実施なし	推進員主体の企画・運営 1.実施あり 2.実施なし	成果物（活動報告書等） 1.有 2.無	支援にあたり工夫した点
那覇市	1	2	1	1	1	自主活動の機会を増やすため、理事会にて新たな活動場所について情報提供を実施。新規加入者に対して、定例会や自主活動に積極的に参加するよう促した。
宜野湾市	1	2	2	1	2	・毎月の定例会前後の体操や反省会を実施した。 ・推進員でグランドゴルフを実施し交流を深めた。 ・健康づくりの発信者として意識してもらうため、定例会でパンフレットの読み合わせを行う等情報提供を行った。
伊江村	2	1	2	2	2	まだ立ち上げたばかりであったため、行政主体で活動したが、行政主体の中でも事業の内容等を立案していただくような発言を出せる雰囲気や場面を提供した。
読谷村	2	2	1	2	2	・地区別定例会を取り入れることで、個々の活動に対する不安感等の解消、地区担当専門職とのつながり強化、地区ごとの健康課題を確認する機会を設けた。 ・村内他団体（食改・母推）との合同定例会を開催し、モチベーション向上に努めた。
嘉手納町	2	2	1	1	2	活動についての目的を会員の皆さんと確認しながら実施した。 また、団体の自主性を尊重し、会員から「やってみたい」と声が上がった内容で事業を行った。その事業については、会員自ら事業の準備等を実施してもらうようにした。
北谷町	1	3	1	1	2	健康づくりを身近に感じてもらうように健康まつりや栄養学習会を開催し、きっかけづくりを行い推進員自身も活動を楽しめる企画にした。
北中城村	1	1	2	2	1	毎月の定例会にて、沖縄県や本村の健康課題を随時伝え、推進員活動に目的を持ち活動してもらうように心がけた。
中城村	1	3	2	2	2	・事業内容に対する意見の呼びかけを積極的に行った。 ・様々な講師から、食事と運動の知識を学ぶ機会を組み入れた。 ・訪問活動では、専門職の有無や2人体制も実施可とし、推進員の負担減に努めた。
西原町	1	3	2	2	2	健診受診勧奨の際に、各行政区毎の受診率を示し、推進員自らの行政区の受診率を意識してもらいながら、受診勧奨を実施してもらった。

問13 今後活動を充実するにあたり、外部から支援が必要なこと

【食生活改善推進員】

項目	内容
ボランティアへ・担当者への研修会	・推進員同士が企画運営を行えるように勉強会や実践を行うことが必要。 ・市町村食生活改善推進員協議会の運営方法についての意見交換会や研修会を希望。自主的に運営方法を考え活動できると、より協議会の活性化につながると考える。 ・専門知識を有する識者による学習会の開催 ・県主催でボランティア向け講習会を開催してほしい。(別添資料にあるマニュアル内容の円熟グループを目指すためには・・・等の内容で)
担当者会議・意見交換の場	・市町村の食改担当者会議を開き、「健康おきなわ21(第2次)」の推進において、食改の役割や市町村の取り組み状況(内容)、課題について、共有を行いたい。
活動の周知・場の提供	・食生活改善推進員の活動の周知や場所の提供。
補助金	・予算補助等の財政援助 ・継続した補助金の確保。 ・事務局運営のための人件費を対象経費に含む、補助率10/10の補助金事業。 ・スキルアップに係る費用の支援。
その他	・食を通じて町民へ郷土料理の調理実習、講習会、自主研鑽活動等を開催する際に、支援が今後必要である。

【健康づくり推進員】

項目	内容
ボランティア・担当者への研修会・交流会	・推進員がモチベーションを保てるような他推進員との交流の場を提供してほしい。 ・推進員や担当者が直面する課題についてヒントを与えてくださる大学の専門家による研修の企画など。 ・県内市町村や県外との交流会の定期的実施 ・講師派遣(無償)
担当者会議・意見交換の場	・他市町村の担当者と相談できる場があると良いと感じました。
活動の周知・場の提供	・県内健康づくり推進活動PRのためのイベント、チラシ作成等。 ・県のイベント(健康づくり関連等)に参加できるよう機会の提供
補助金	・補助金等の財政的な支援。 ・助成金の継続
その他	・活動に参加する方が高齢化する一方、若い人で協力できる方を探すのが困難なため、イメージチェンジやICTの活用など幅広い視点が必要になると感じる。 ・行政主体の部分だけではなく推進員主体の事業の展開を増やし、行政がサポートとする形にしていきたい。